

西村天因

（さんじゅう

小説家、新聞記者、漢學者、文學博士。

慶應元年七月

月二十二日大隅國種子島生れ、大正十二年七月二十十九日歿（一九三五年一月二四）。

本名時彦、字子駿。別號天因學人、天因居士、天因生、天因内等。東京大學文學部日本文學講師兼中退。明治二十二年『大阪朝日新聞』

記者、二十五年生筆、大正七年退社。この間渡邊霞亭等と浪華文學會

を興して雜誌『浮城物語』、『浪花文學』を創刊。また在職中に『

京都帝國大學講師務め、大阪懷德堂由達に盡力。大正十四年一月十八

用樹となる。「頌園先生追悼錄」（小沼量平編、大正十四年一月十八

大阪・懷德堂書友會『懷德』第2號）刊。

著書『肩屋の籠』全一冊（西村天因居士名、前篇、明治二十年五月二

日、後篇、二十二年五月十九日博文堂）、『ゲキクトル、チツソーサン

ジョージ、デー、オヅケア英譯・大眼子童譯『放逐人千里風煙（上

編）』（同、木廣鐵腸居士共、明治二十二年一月二十二日博文堂

・文盛堂、敷文館發兌）、『奴隸世界』（同、瀧川君山等、明治二十二

年四月）、十八日有文堂）、『居酒満之報』（同、明治二十二年十一

月）、二十四日金盛堂、同盟分舍發兌）、『志賀別川、新山等、明治二十二

年十一月愛知・東雲堂）、『小夜物語 双鶴琴』（同、明治二十二年九月

三十日大阪・藤々堂分店「小說無類藏」）、『桂峰、翠嵐』（天因居士名、

明治二十四年十一月）、二十六日大阪・圖書出版會社）、『老女村岡』（同、

明治二十五年二月七日大阪・圖書出版會社）、『怪

男兒』（同、明治二十六年四月二日博文堂）、『文



陽堂）、『北白川の月影』（本名、明治二十八年

十一月二十八日大阪・大阪朝日新聞會社「朝日叢書」)、『秋聲白露』

(合著者・研學會編、明治二十一年十一月)、十九日研學會「研學叢書」)、

『続行八種』(天國屋士名、明治二十二年五月十日誠文堂書店)、『今

古歌話』(織野秋渚井編、明治二十九年十月十日誠文堂書店)、『今

『日本宋學史』(明治四十一年九月一日梁江堂書店・阪杉木梁江堂)、

『尾張鏡』(明治四十三年四月五日興風書院)、『勢説通』(全)一冊

(本名、著、一柳安次郎校正、内の巻上一下、外の巻上一下・明治四

十四年十月五日自刊、大阪・松村文海堂「懷德堂遺書」)、二字萬年

・中井發菴・中井竹山著『懷德堂五種』(同、編、上松寅二校、明治

四十四年十月五日自刊、大阪・松村文海堂)、『朝日講演集』(合著、

明治四十四年十一月十九日大阪・朝日新聞合資會社)等。